

情報通信審議会情報通信技術分科会 技術戦略委員会  
標準化戦略ワーキンググループ（第7回）議事要旨

1. 日時・場所

日時：令和2年4月15日（水）10時00分～11時15分

場所：Skype WEB 会議室

2. 出席者（敬称略）

（1） 構成員：

下條主任、丹構成員、稲田構成員、岩科構成員、崎村構成員、中村構成員、原井構成員、原田構成員、前田構成員、眞野構成員、三宅構成員

（2） 総務省

二宮審議官、松井技術政策課長、山口通信規格課長、森下宇宙通信政策課長、松本通信規格課企画官、田邊通信規格課標準化推進官

3. 議事要旨

（1）とりまとめ（案）について

総務省から資料7-1に基づき、とりまとめ（案）の内容について報告があった。  
主な質疑応答内容は以下のとおり。

ア P.5「2 標準化に関する取組の方向性（2.1 注力すべき標準化領域）」について

- 「（3）アプリケーション・サービス領域」について、アプリケーションレイヤの話ではなく、（同資料P.3に記載のある）ユースケースのアプローチを取り入れた内容のように見受けられる。特に製造分野はリンクの話が中心になっている。よって、（3）のタイトルに違和感があるため、「アプリケーション・サービス・オリエンテッド」や「アプリケーション・サービス・ドリブン」などの記述に修正すると良いのではないか。
- 「（2）プラットフォーム・横断的領域」は、横断的である一方、（3）は1つのアプリケーション、ユースケースを縦断的に見ているとの側面がある。
- 「アプリケーション・サービス・ドリブン」という表現が適切と考える。
- 5Gをはじめとする技術は、単独の要素技術だけで1つの課題が解決するわけではない。そのため、（3）の表現は、課題解決型とすれば良いと考える。
- ◇ ユースケースからのアプローチによって、産業界を巻き込むというニュアンスを盛り込んだ表現としていた。「ユースケース・オリエンテッド」等のユーザーの視点からの表現を検討したい。

- 「アプリケーション」という表現は誤解を招くため、表現を修正すれば良いと考える。
- ユーザーからの視点を反映した表現としてほしい。
- 「ユースケースの創造」との表現には違和感があるため、「ユースケースの想定」とすべきではないか。
- ◇ ユースケースを創造するというニュアンスも含むため、表現を補足する。

- (3) に記載されている要素が、(2) 部分にも存在すると考えている。(2) 右側部分に(3)のブロックがくの字型に覆いかぶさる表現とするのが良いのではないかと。併せて、各ユーザーや各種業務領域等の様々な要素を取り入れる表現にすれば良いと考える。

- 3つの分類を横ではなく縦に並べることでうまく表現できるのではないかと。

- ◇ (1) ~ (3) の相互関係が分かるように、図の表現を工夫したい。

- (1) の項目は Beyond 5G 実現という具体的な重点領域を表現している一方、(2) と(3) では具体的な領域は記載されていない。そのため、(2) や(3) においても具体的なメッセージを記載したほうが良いと考える。

- ◇ 各項目の文章中に要素を記載しているものの、表現は改めて検討したい。

- 例えば、(2) に「分野を超えた標準化技術の創出」、(3) に「社会課題可決のための標準化」などの表現が可能である。

- (1) ~ (3) に記載されている各要素を説明文と分離して、(1) ~ (3) に対応する形でレイヤ状に表現できると良い(右側が説明文、左側が各要素の形)。左側のレイヤのイメージとしては、1 段目が量子情報技術、光ネットワーク等、2 段目はシステムフレームワーク等、3 段目がスマートシティ、製造等といった形となる。

- ◇ 指摘を踏まえて、文章やイメージ図などの表現は検討したい。

イ P.19 の「2 今後の標準化に係る取組の方向性（推進方策の全体像）」について

- 「標準化活動の推進方策」の「(2) 戦略立案・推進のための体制整備」として整備する方向性が示された標準化を戦略的に推進する拠点機能（Beyond5G 知財・標準化センター（仮称））は、戦略立案に限った組織を想定しているのか。

- ◇ 戦略立案のための調査や実証試験環境と連携した組織を検討している。

- TTC 等、既存の国内標準化組織と連携しながら、「標準化活動の推進方策」(1) ~ (5) までの取組をまとめていく組織にする必要があると考える。

- ◇ P.21 の最後の記述に TTC や ARIB といった民間機関や、NICT 等の国研が連携して進めていく旨を記載している。

- 「標準化活動の推進方策」(2)の戦略立案・推進のための拠点機能について、活動内容は全てオープンにするのか。全てオープンにした場合、不具合が生じないか。
- ✧ オープン・クローズ表裏一体となって戦略的に取り組んでいきたいと考えている。必ずしも全てをオープンに活動する方針ではない。
- クローズの部分は特定のメンバーのみに共有されるという構成になるのか。
- ✧ 仕組みは今後考えていかなければいけない。まずは体制を整えたうえで、詳細は今後議論しながら詰めていきたいと考えている。
- 国家戦略として標準化推進方策全般をどのように進めていくのかといった大きな方針の1つとして、この体制整備が重要となってくる。また、他機関とのリエゾン関係も記載したほうが良いと考える。
- ✧ 国プロで実施している研究開発とも密に連携して進めていくと記載している。国プロとの政策的な連携による標準化の進め方についても記載を検討したい。
- ✧ 総務省全体でも Beyond 5G を積極的に推進する運びであるため、その中で本拠点機能の役割を関係省庁と調整しながら、標準化のみが目的とならないように進めていきたい。
- オープン・クローズの観点だけでなく、標準化活動に寄与できる人材が、情報収集だけではなく、具体的に戦略構築するという視点を加えるべきと考える。
- ✧ 指摘を踏まえて、記載を検討したい。
  
- 例えば JST の研究開発戦略センター(CRDS)のような戦略を担う組織を作った上で、オープン・クローズの整理を検討すれば良いと考える。また、「標準化活動の推進方策」(2)の戦略立案・推進のための拠点機能は、標準化活動に関する評価やサジェスションは行わないのか。
- ✧ 調査分析機能という点ではP.20に記載されている過去の標準化活動のノウハウ共有の中で、良い例、悪い例を共有したいと考えている。
- ビジネスにもならないような標準化で実績稼ぎしている例も中には存在する。そのような例を創出しないためにも資料中に「評価」という記載を加えてほしい。
- ✧ 戦略立案機能の中に進捗管理も含まれているため、その中で評価をしていくこととしたい。
  
- 「標準化活動の推進方策」(2)の戦略立案・推進のための組織が予算を適切に管理し、予算配分と活動が連携できれば良い。
- そうなることが理想である一方で、多くのステークホルダーが存在するため、実現は難しいと考える。文科省における一般財団法人 HPCI コンソーシアムのように、コンソーシアムがスーパーコンピュータに関する戦略を立てた上で、文科省が予

算化するような構図になれば良いと考える。

- ◇ 予算を具体化する際に、上手く連携していきたいと考える。
  
- 戦略立案の際には、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が策定する科学技術基本計画との調整も必要になると考える。また、「標準化人材の確保・育成方策」の（１）、（２）がそれぞれ相互に連携しながら、（１）で確保した人材が（２）の人材育成にも関わっているという記載になれば良いと考える。
- ◇ 前者の指摘については、標準化戦略が、科学技術基本計画にも反映されるよう貢献していきたい。後者の指摘については、人材の相互関係が分かるように修正したい。

※今回の指摘を反映した資料を作成の上、最終的には本WGの主任である下條主任の一任によって、技術戦略委員会へ報告することとなった。

## （２）その他

事務局から、参考資料３に基づき今後のスケジュールに関する共有と、参考資料２に基づきこれまでの議論を取りまとめた報告書について報告があった。

また、本日の議論も踏まえ、資料を修正し、後日、メールで意見照会する旨、報告があった。

最後に、二宮審議官から閉会の挨拶が行われた。

以上